



細田安治

ルーツを辿ると 清和源氏

まず最初に細田家のルーツを紹介させて頂く。
私は子供のころから、父や母から祖先にまつわる様々な逸話を事あるごとに聞かされて育った。こういったときさか面映ゆいが、他人への思いやりを大切に、自分は常に他から生かされている、などと「言う私の考え方はこうした祖先の逸話が強く影響された結果だ」と思うからである。

田と縁を結ぶ。源氏、新田氏とも歴史上有名な人物が登場するがここでは割愛する。

現在、気賀の全徳寺の南東100mにある知足院跡に喜斎の墓が現存している。

喜斎の嫡男・為高から遠江名倉を名乗り、三男・伊友が三河名倉を興した。三河名倉（現在の愛三木材の名倉家）と細田の先祖遠江名倉が分かれたところだ。

喜斎から為高、貞清、藤蔵と続き藤蔵は初代長兵衛を名乗った。これより五代まで長兵衛を襲名している。

五代目長兵衛は義快心に富んだ人であった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

伝え続ける「無私奉公」の精神

その後、徳川家康に攻められ落城寸前、単身城を抜け出し喜斎と名乗り隠遁した。そこで塩商人として成功し財をなし、人々に慕われる存在となった。

五代目長兵衛は義快心に富んだ人であった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

五代目長兵衛は義快心に富んだ人であった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

五代目長兵衛は義快心に富んだ人であった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

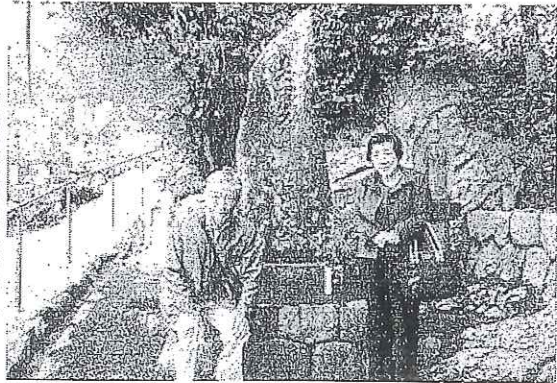
江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

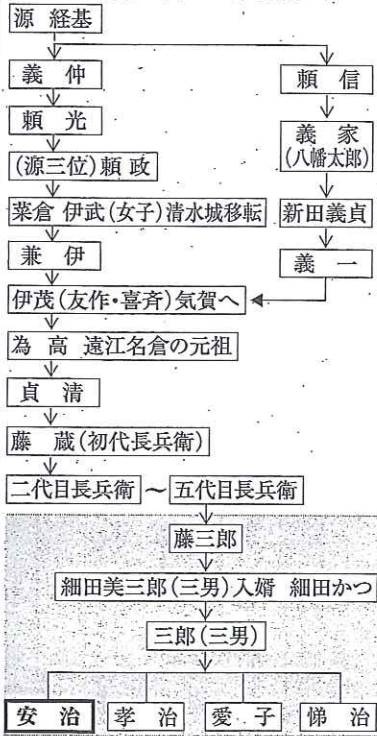
江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。

江戸時代末期の1847年（弘化4年）秋に発生した地震のため、水田が塩水に侵され壊滅的被害を被った。この水田をめぐり、農民一揆が起る存在となった。



藤三郎の墓の前で筆者と夫人

細田家の由来



名倉藤三郎は五代目長兵衛の長男であり「1818年

名倉藤三郎

三遠農学舎は農作物の研究、新しい農業器具の開発などで、農業の振興に寄与した。経費は全て寄付と、奉仕で賄われたと言った。

当時の農村は気力に満ち満ちていた。現代人も、このような快挙を成し遂げた先人から学ばねばならないことが沢山あると思うがいかがか。

藤三郎翁の墓は、三遠農学舎により気賀の宝積寺に建立された。長年の風雪により崩れかけ存続が危ぶまれていたが、藤三郎翁の孫であり、私の父細田三郎が1968年（昭和43年）12月17日に再建した。⇨次回は12月4日付⇨

（細田木材工業協会会長）

（文政元年）11月10日生れ、1897年（明治29年）11月20日没。法名 愛徳耕山貞隣居士。行年79歳」と宝積寺の過去帳にはこう記されている。藤三郎は明の袁了凡の著書陰陽録（いんじょうろく）を学んだ。

「人間ひそかに善業をなし、隠徳を積めば、天がこれを査定して、福を授けること、所謂積善の家に余慶あり」と論じている。つまり、報徳の精神が基本だ。

藤三郎は陰陽の教えを忠実に実践したため、稼業繁盛、信用絶大となり、材木、薪炭、山の荒買開発等の事業を拡大し、家運隆盛となり、大きな財を成したという。

しかも、この財力を私せず、晩年まで公共事業は勿論のこと、秋葉神社、奥山方広寺を始め神社仏閣に惜しげなく寄進した由である。

また、晩年の藤三郎翁は、明治から大正にかけて農村の子弟教育のために創設された学舎の三遠農学舎創設に尽力した功労者8名の一人として浜松市源長院の記念碑に記録されている。

三遠農学舎は農作物の研究、新しい農業器具の開発などで、農業の振興に寄与した。経費は全て寄付と、奉仕で賄われたと言った。

当時の農村は気力に満ち満ちていた。現代人も、このような快挙を成し遂げた先人から学ばねばならないことが沢山あると思うがいかがか。

藤三郎翁の墓は、三遠農学舎により気賀の宝積寺に建立された。長年の風雪により崩れかけ存続が危ぶまれていたが、藤三郎翁の孫であり、私の父細田三郎が1968年（昭和43年）12月17日に再建した。⇨次回は12月4日付⇨

（細田木材工業協会会長）